

日本だけで勉強するのではなく、ぜひ海外でも学んでほしい

——ところで、一般的な質問になりますが、ジルベスターさんにとって、フルート奏者になるために必要な資質は何だと思われますか？ また、日本のフルートを学ぶ若い人たちに何かアドバイスがありましたらお願いします。

S: まず第一に、音楽家になるには「愛情」を持っていることが、とても重要です。「愛情」なしでは音楽はできません。

それから、フルーティストになるには、顎の骨格、唇の形、身体の大きさも重要なポイントです。つまり、フルートを演奏するには、身体がフルートという楽器とマッチしていることが大切だと思います。私が生徒にフルートを教えていて気が付いたことは、生徒たちに顎や歯並びに問題がある場合、それに対処する努力をしなければいけません。もちろん、生徒たちは、そのような問題を克服して演奏していますが、大変苦労しています。指の長さなどはヴァイオリン奏者に比べて、それほど問題ではありませんが、はじめからフルートを楽に吹ける身体や顔骨格などを持っていることは、大きなポイントのような気がしています。

日本のフルートを学ぶ若者へのメッセージですか？ そうですねえ、まず日本のいいところは、優秀な楽器メーカーがたくさんあるところですね(笑)。そして、日本は昨今、フルート文化が信じられないほど発展し、そのレベルもすでにとても高くなっています。もし私が皆さんにアドバイスをするとしたら、日本だけで勉強するのではなく、ぜひ海外でも学んでほしいと思います。私自身がフランスで、



唇の使い方や、その言語からたくさんのことを学んだように、皆さんも、できたら海外に行き、例えばドイツやフランスに1年ずつでもいいので滞在し、オーケストラの演奏会を聴いたりして学ぶことを強くおすすめしたいです。

——最後にジルベスターさんが愛用されているミヤザワフルートとの出会い、また、その魅力をおしえてください。

S: ミヤザワフルートのことは、以前からパリでミヒ・キムから聞いて知っていましたが、数年前にオーケストラ・ツアーで来日した折、友人の紹介でミヤザワの工房を訪ねる機会がありました。そこで何本か試奏して、一瞬にしてその音色に魅了されました。ツアー期間中、そのフルートをコンサート(パッハの『管弦楽組曲』や『ブランデンブルグ協奏曲第5番』)で実際のステージで試すことができ、この楽器のよさを確信しました。ちょうどそのとき、今まで使っていたフ

フルートが壊れてしまい、私自身、これはきっと新しいフルートを買う知らせだ(!)と思いました。

私が楽器選びで一番のポイントにしていることは、その音色です。ミヤザワフルートには私が望んでいた豊かな音色があり、一目惚れしてしまいました。ミヤザワフルートは、メカニックの確かさはもちろんのこと、何よりも様々な音色の変化が自由自在に出せると私は思います。まさに私が望んでいた理想のフルートだったのです! 購入にあたって、いくつかの選択肢がありましたが、一番気に入ったのは14kゴールドフルートです。ミヤザワフルートの音色は、フランスのボルドーワインのように熟成しています。他にももう一本、ミヤザワのシルバーフルートを持っていて、各演奏シーンに合わせて使い分けています。

——ありがとうございました。

[インタビュー後記]

今回のインタビューは、オンラインで東京⇄ドイツを繋いで行なわれました。ドイツは朝、東京は夕方という時間帯でした。ジルベスターさんはとてもお洒落な花柄ブラウスを着ていらっしやり、笑顔が美しく、一つ一つ丁寧に私の質問に答えてくださいました。インタビュー前に、彼女のCD「Clazic」を聴かせていただいたところ、クラシックの確固たる技術に裏打ちされた軽快で、自由な音楽に仕上がっており、心地よいものでした。彼女の音楽は構築された美しさがありますが、ジルベスターさんがこれまでにしてこられた経験とお人柄によるものでしょう。今後のご活躍が楽しみなアーティストです。

(岩下智子)

Profile マルティナ・ジルベスター Martina Silvester



ミュンヘンとパリで学び、バロックフルート、歴史的パフォーマンス、即興のコースでトレーニングを続けた。

オーケストラミュージシャンとして、様々な国の楽団で演奏。サー・コリン・ディヴィス、ヴァレリー・ゲルギエフ等の著名な指揮者と共演している。

2009年、ジャズとクラシックがジャンルを超えて融合したアンサンブル「Clazic」をピアニストのスザンナ・クロフスキーと共に結成。2014年、ハーブ奏者フェオドラ・ヨハンナ・マル

デルと「Duo Naiades」を、2018年には、ピアニストのステファニー・エルバズとチェリストのカテリーナ・ジャンニシオティと共に「Trio Leilani」を結成。

現在は「ユーディ・メニューイン・ライヴ・ミュージック・ナウ」のメンバーとして、テレビ、ラジオ、CD等多岐に渡ってレコーディングに頻繁に参加。カリスマがある多才な演奏家としてだけでなく、その指導力の高さも知られており、国内外多くのマスタークラスで指導している。